

快適情報ソリューション

ユビキタス情報社会を実現する情報ライフライン化構想

「お客様の夢を実現すること。
情報ライフラインも、
最後はそこに通じます。」

情報・通信グループ COO
八丁地 隆

自宅や会社のパソコン、あるいは携帯電話から、ごくあたりまえにインターネットに接続できる時代。だれもが安全で快適に情報を利用、発信し、その価値を享受できる「ユビキタス情報社会」がいよいよ現実味を帯びてきた。その実現に向けて日立グループは、「情報はライフライン」という構想の下に、ハードウェアからソリューションにわたる総合的な取り組みを進めている。情報がライフラインとなった社会で日立グループが果たすべき役割について、情報・通信グループの八丁地 隆COOが語る。



情報とその価値が、 社会の隅々まで行き渡るように

ユビキタス(Ubiquitous)——ラテン語で「あまねく存在する」ということばを語源とする英語の形容詞が、コンピュータの近未来像を表す一つのキーワードとなっている。コンピュータがいたるところに存在し、ネットワークで結ばれ、いつでも、どこでも、だれもが、特別に意識せずとも情報のやり取りが可能な「ユビキタス情報社会」は、もはや夢ではない。

2001年末時点で、わが国のインターネット利用者数は世界第2位の5,593万人、従業員300人以上の企業への普及率はほぼ100%※)と、インターネットを介した情報は、すでに社会生活の「必需品」と化しつつある。さらに、携帯電話の加入者数は2002年3月末現在で6,912万人、うち携帯インターネット契約者数は5,193万人※)。場所や時間を選ばずネットワークに接

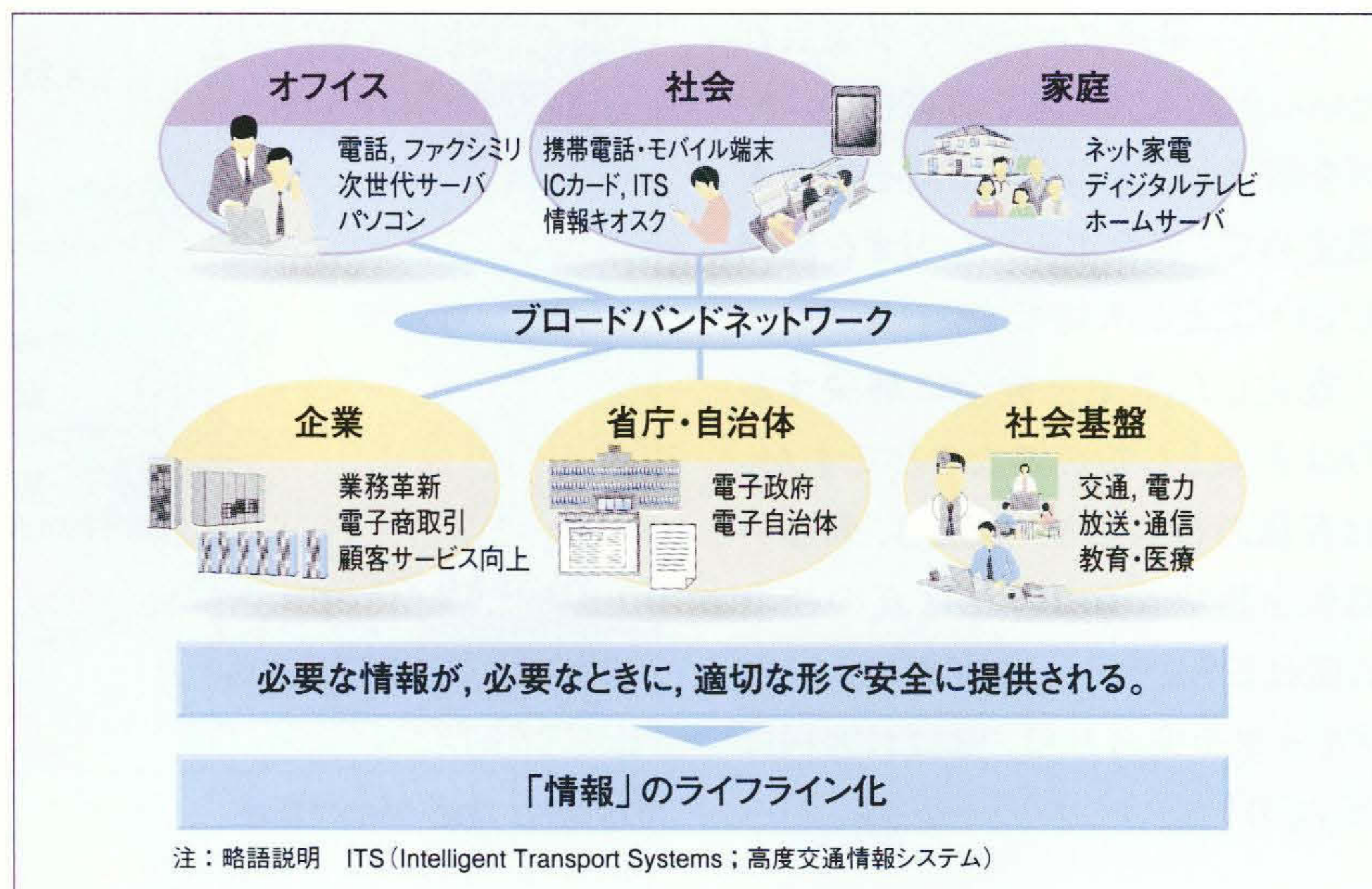
続できる環境に、ユビキタス情報社会のほう芽が見られる。

ユビキタス情報社会では、必要な情報が、必要なときに、適切な形で、安全に提供されることが必須となる。すなわち、情報のライフライン化である。

「電気、水道、ガス、交通といった従

来のライフラインと同様に、情報とその価値があまねく行き渡り、社会生活を支える基盤となります。そういう社会を創造することが日立グループの願いであり、従来の安全なライフラインの提供に尽力してきた経験、技術、人材、事業基盤を役立てたいと考えています。」(八丁地COO、以下同)

ユビキタス情報社会と情報のライフライン化



情報のライフライン化に向けて大切なのは、情報基盤の提供という視点とともに、情報を活用して新しい価値を生み出すという視点を持つことだ。現在、情報・通信グループとユビキタスプラットフォームグループを中心に、統一的なビジョンで取り組みを進めている。

「今後、情報通信は社会インフラの一部となります。ハードウェアでは、サーバ、ストレージ、エンドユーザーがじかに接する端末、それを構成するデバイスなど、それぞれ付加価値の高い、魅力ある製品の開発が求められます。さらに、ハードウェアを連携して能力を生かすミドルウェアの開発も強化しています。また、情報を活用するための各種アプリケーションやサービスにも力を入れています。これらの技術を総合的に備えている企業としてのポテンシャルを、どう生かすかが問われるでしょう。」

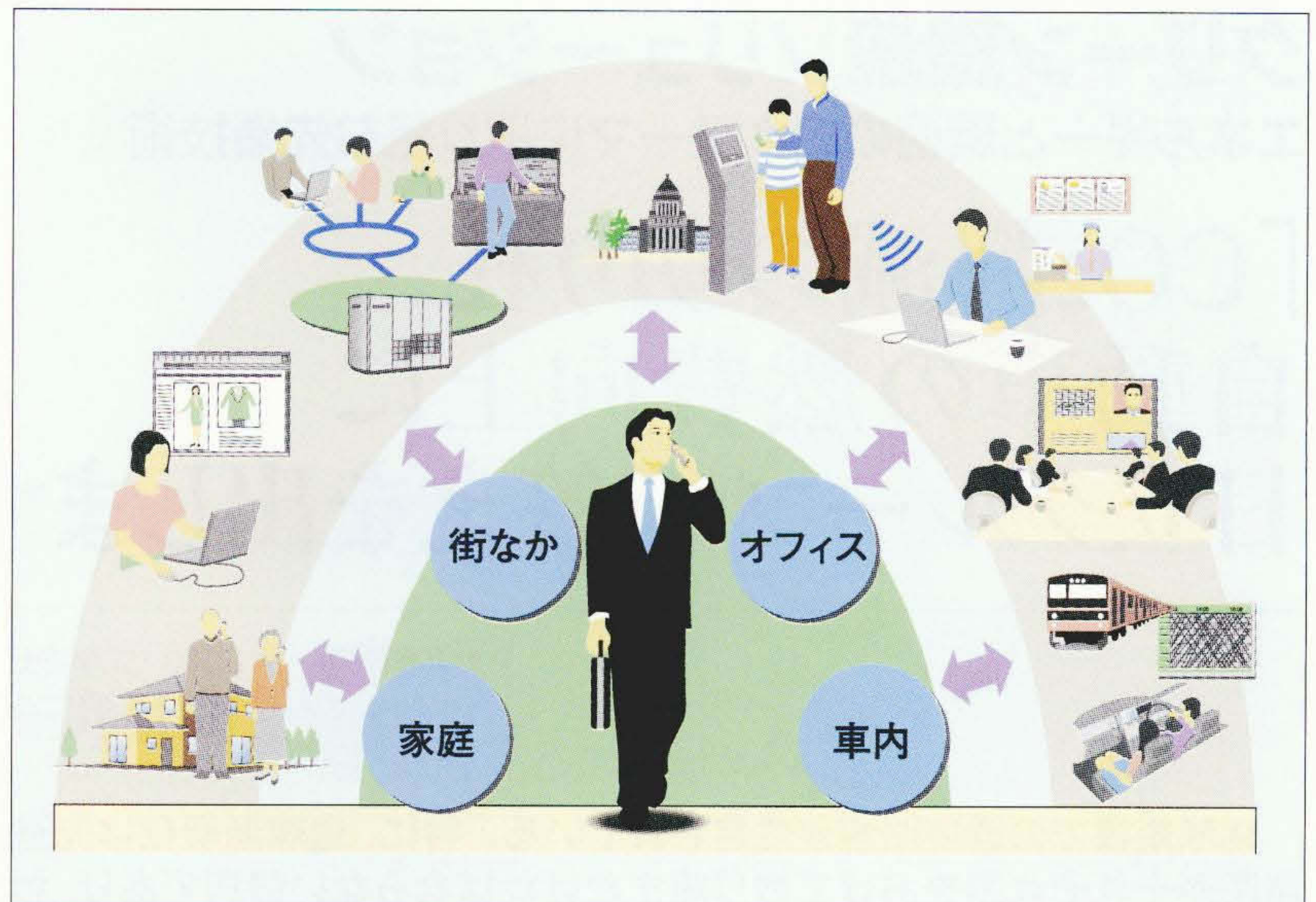
※「平成14年度情報通信白書」(総務省)による。

「個」の可能性を広げる時代へ

ビジネス基盤のIT (Information Technology) による強化が求められる中、さまざまな技術をお客様に最適な組み合わせで提供するソリューションが重要になっている。

「お客様の目線に立ったコンサルティングの力を強化していきたいと考えています。お客様の『こうしたい』を共有し、ソリューションとして提供する力を磨くこと。さらに、高度化するニーズを理解するだけでなく、社会の変化にも柔軟に対応しながらソリューションを『提案できる』能力も求められます。」

そうして実績を積み重ねていくことにより、「お客様が何か相談したい



オープン・双方向・ユビキタスな社会

と思ったとき、真っ先に思い出していただける会社になる」ことを目指していく。

ハードウェアという目に見える価値、日常生活やビジネスに必要な情報を安定して、安全に提供するとともに、その快適な活用を支えていくという目に見えない価値、この二つの価値が十分に発揮されて初めて、信頼性、利便性の高い情報ライフラインが形成される。

情報のライフライン化が社会にもたらすのは、ユビキタスに情報を利用し、発信できるという利便性・快適性に加え、個々人が常に世界とつながっている感覚を自覚できることではないかと八丁地COOは見ている。

「個人と世界の関係が、オープンかつ双方向かつユビキタスになる。そこにどんな価値を見だし、実現するかはひとりひとりの問題となるでしょう。これからは、やはり『個』の時代であり、ユビキタスな情報環境がそれを後押しします。ビジネスにおいても、個人がスキルやモチベーションを高め、お客様との間にオープン・

双方向・ユビキタスな関係を築くことを目指さなければなりません。」

だれもが情報の価値を享受できるユビキタス情報社会の形成に向け、個人の意識も大きく様変わりしていくに違いない。

「そうした魅力ある個の集合体としての日立グループが、社会全体とオープン・双方向・ユビキタスな関係を築きながら、豊かで快適な社会の基盤となる情報ライフラインの形成を支援していくのが理想のあり方です。その先には、常にお客様の夢を実現する企業でありたいという、大きな目標があるのです。」